創世紀１章１節～２章３節

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責：ッ

# **About創世紀**

1. 名称

ヘブル語の原本には題がなく、冒頭の語「初めに」が題とされていた。

創世記という名前は「誕生、起源、発生、創始」を意味するギリシア語の訳語ένεσις（ゲネシス）に由来する。

マ兄正解！！！

1. 著者

聖書に直接書かれているわけではないのだが、（モーセ）が深く関わっている[[1]](#endnote-1)と考えられている。

→（モーセ）が成立に深く関わっていると考えられている旧約聖書の最初の５つの書のことをなんというか。

1. モーセ５書
2. 内容

１~11章には天地万物の創造、人の創造からアブラハムの父テラの世代までのことが、イスラエルの前史として記述されている。

12~50章にはイスラエルの民の誕生の次第が、アブラハム、イサク、ヤコブへの神の契約の進展の中で記述されている。

け兄のアブラハム：最初に神と深いかかわりをもった名のある人。

ハ兄のアブラハム：約束の地カナン、人類復活のための預言者

ツ兄→アブラハムの知識をこれからしっかり補てんしていきましょう。

# **1章のあらすじ『天地の創造』**

1日目　暗闇がある中、神は光を作り、昼と夜が出来た。

2日目　神は空（天）を作った。

3日目　神は大地を作り、海が生まれ、植物が出来た。

4日目　神は太陽と月と星を作った。

5日目　神は魚と鳥を作った。

6日目　神は獣と家畜と、神に似せた人を作った。

7日目　神は休んだ。

1. これらはモーセが書いたという伝承があったのでモーセ五書と言われるが、近代以降の文書仮説では異なる時代の合成文書であるという仮説を立て、モーセが直接書いたという説を否定する。ただし保守的なキリスト教会と学者は今日もモーセ記者説を支持している。また正教会における註解書には、こうした学説の対立に触れず、「伝統的に」モーセが著者

   であるとされているという記述にとどめているものもある。

   # １日目

   　Q「地は混沌であった」(1-2)とあるが、どのような状態だろうか

   I兄：なんもない

   ツ兄：今の地上のイメージではない。全くちがう。

   # ２日目、３日目

   　Q「神は大空を天と呼ばれた」(1-8)とあるが、１節に出てくる「天」とこの「天」は異な

   　　るものか。理由も含めて考えよ。（３日目の「地」についても同じ）

   マ：最初は宇宙でつぎが空

   五：最初は把握できないやつ、次がいまの青空

   S：人間がイメージできるかできないかの違い。

   山本先生：一節目の天地は表題としての天地である。創造の全体の表象。

   け兄Q：水が上下に分かれたってどういうこと？

   ツ兄：上は自分たちの想像できないもの、下は自分たちの見ているもの。

   Q水の中に大空・・どういうこと

   山本先生：最初に水があった、存在していた。神は水の移動、循環などにより地などを作った。ノアの洪水を参照してみてもわかりやすい。

   # ４日目

   　Q４日目で神は太陽と月を作り、昼と夜、光と闇を分けさせたのだが、１日目ですでに光

   　　と闇は神によって分けられていた。なぜ新たに太陽と月をつくらなくてはならなかっ

   　　のか。

   け、ハ兄：目印が欲しかった。

   瀧兄：光の存在を始点とした創造の一貫として、太陽と月ができた。

   山本先生：‘宇宙は何でできているのか？‘読んでみよう。

   秩序立たせるための太陽と月？

   # ５日目

   　Q「水の中に群がるもの、すなわち大きな怪物、うごめく生き物」とはどんな生き物で

   　　あるのだろうか

   因みに、蛇、ワニ、竜で訳されている。

   山本先生：リヴァイアサンを想起させるよね。

   # ６日目

   　Q「我々にかたどり、我々に似せて」(1-26)について、我々とは誰のことを指すのか。ま

   　　た複数形であるのはなぜか。

   マ兄：神は唯一だが、その多面性から複数に見える。

   　Q「種を持つ草と種を持つ実をつける木を」(1-29)とあるが、この記述から読み取れるのは「人間は肉食ではなかった」ということである。何故、人間は肉を食べるように作られていなかったのか、また肉を食べるようになったのは何がきっかけだと予想できるか。

   け兄：共食いさせないため。

   ハ兄：創世記の９章では食べるのを許可している。

   I兄：神に背いたから肉をくいはじめた。肉食う＝支配性

   ツ兄：神は休むことがデフォルトになっている。働くことは罰。

   山本先生：キリスト教になるまでは安息日は土曜日、なってからは日曜日。

   安息日は休みを得る日からやすまなくちゃいけない日に変わっていった。

   ユダヤの暦では日没から一日が始まる。このサイクルは一日は闇で始まり光で終わる。つまり、希望は必ず来ることを示している。創世記がまとめられたときの世界は闇の中にあったのではないか。創世記の基本的なメッセージは「誕生してよかった」。神は人間のために世界をツクッタのかもしれない。 [↑](#endnote-ref-1)